



本 時 案 (第〇次の第〇時)		
目 標	○・・・・・・・・・・・・・・・・(思考・判断・表現) ・単元の目標の「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用の技能」「知識・理解」のうち、本時の学習活動で目標としているものを具体的に書く。 ・ねらいを明確にした授業づくりのために1～2つの目標に絞り込む。 ※文末表現例「～しようとする」「～できる」など [生徒の立場で書く]	
学習活動	指導・支援上の配慮事項など	評価規準・方法など
[生徒の立場で書く]	[指導者の立場で書く]	[生徒の立場で書く]
1	○ 学習活動のねらい(生徒に提示する本時の目標)を、実線で囲んで書く。	
2 (1) (2)	○ ・ ○ ・ ○ ○ 指導過程に沿って、教師の指導・支援の意図・重点、工夫、手だてなどについて留意すべきことを具体的に書く。 ・予想される生徒の反応 ・生徒一人一人の学習進度に応じた手立て ・資料提示の機会や方法 ・効果的な学習方法や、学習形態の工夫 ※板書計画や準備物などは別に欄を設けることもある。	本時の目標と対応させる。 評価場面は1～2か所 ○ (思考・判断・表現) <ワークシートの記述> 評価の観点、規準、方法などを具体的に書く。 ※評価方法例 観察 ワークシート 作品提出 小テスト 相互評価表 など
※文末表現例 ～を聞く。 ～を書く。 ～をまとめる。 ～について考える。 ～について話し合う。 など		
3	○ ※「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への具体的な手だても記す。	
4	○	

※学習指導案作成上の留意事項

- 書式は固定的なものではない。生徒に提示する活動のねらいやそれを達成するための手だてを具体的に表現するのに適した書式を選択する。
- どのような書式を選択しても、次の点は学習指導案から読み取れるようにする。
  - 生徒がどのような目標をもって活動すればよいのか、また、生徒がその目標を達成できるように、指導者がどのような手だてを講じているか。
  - 指導の中で評価がどのように位置付けられ、どのように活用されているか。
- 評価規準の設定に当たっては、『評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料－高等学校－』（平成24年7月国立教育政策研究所）を参考にして、生徒の発達の段階を踏まえ、単元の指導のねらいを明確にするとともに、当該単元に位置付ける言語活動と取り上げる指導事項に応じて、適切に設定することが望ましい。なお、「十分満足できる」状況(A)と判断する際のキーワードとその具体的な姿の例や、ABCの評価の尺度を示すこともある。